

【別紙】学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【商業／広告と販売促進】

1. 対 象

2年次よりB学習系（流通ビジネス学習系）を選択した生徒の学習集団である。授業には落ち着いて取り組むが、教科内容に対する関心・意欲は低く、考察を行う場面でも思考を深めることができない生徒が多い。

2. 単 元 名 「店舗立地の重要性と立地条件」（全6時間）

3. 単 元 目 標 店舗立地の重要性と立地条件について、小売業における具体的な事例を取り上げて理解させるとともに、顧客を誘引する立地について、具体的な課題を設定し、立地の検討を行う実習をさせる。

4. 本時の目標 店舗の設置等に関する課題の考察を通して、小売業における店舗立地の重要性を理解する。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

- ・新しく学校の周辺に最寄品を販売するコンビニエンスストアの店舗を新しく設置するとしたら、どこが良いだろうか。
- ・新しく伊東市に買回品を販売する大型家電量販店の店舗を設置するとしたら、どこが良いだろうか。
- ・学校周辺の店舗について分析してみよう。

考えるための材料

【地図】	【資料】	【ワークシート】
・学校周辺の地図 ・伊東市の地図	・伊東市の地域別人口 ・伊東市の地区別人口 ・伊豆急行の利用者人数など	・設置を決めた理由を記入

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・個人で課題の考察を行い、地図に設置場所を、ワークシートに設置を決めた理由を記入する。（10分）
- ・2～3人のグループで各自の案を検討し、グループとしての意見をまとめる。（10分）
- ・グループで検討した設置場所を黒板の地図に記入し、設置を決めた理由について発表を行う。（10分）
- ・学校周辺の店舗について分析し、分析内容の発表を行う。（20分）

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・店舗立地の重要なポイントについて、他者との対話を通して理解を深めることができる。
- ・「専門品を販売する店舗や飲食店など他の店舗の場合はどうだろうか」など、新たな問いが生まれる。

予想される生徒のあらわれに関する育成すべき資質・能力三つの柱からの分析

①知識・技能	販売する商品の種類や店の業種、店舗規模等の諸条件により商圈が決定されることを理解し、小売業の店舗立地の選定を行う技能を身につけているか。
②思考力・判断力・表現力	販売する商品の種類や店の業種、店舗規模等の諸条件の違いを考慮し、より良い店舗立地を思考することができ、立地場所の良否を判断できるか。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	身近な小売業者の店舗について、客観的に分析しようとする意欲を持っているか。また、科学的なデータを基に考察しようとする態度を身につけているか。

授業実践振り返りシート（授業前後）

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	立地場所を高校の近くに選んだ理由は、学生の集客や地区の世帯数も多いので、OLやサラリーマンにも人気が出ると考えたからです。また国道の学校側にはコンビニがなくて不便だったため、できるだけ近くで早く行きたいと思ったからです。	立地によってメリットやデメリットがあり、他人の意見を聞くことで、また違ったメリットやデメリットを知ることができました。自分だけでなく他人の意見を聞くことで全く違うことも知識として入り、柔軟性が生まれたので良かったです。
Bさん	本校の生徒が「学校の前の店舗がコンビニだったらいいのに」と言っているのをよく聞きますし、私もそう思います。他のコンビニに行くにしても、少し歩くので面倒だと感じます。高校生はコンビニの利用頻度が高いので、学校の前に店舗を立地すれば本校の生徒がたくさん来てくれると思います。	高校生とか若い人のことも大事だけど、お年寄りの方のことも考えると、坂がある場所を避けたりするのも大事だと思いました。周りに何があって、交通量がどのくらいでとか考えながら立地を考えるのは大変だと思いますが、店舗にはお金がかかるので、慎重に決めなくてはならないのだと思いました。
Cさん	立地場所を駅周辺に選んだ理由は、川奈地区は他の地区よりも人口が多く、子供からお年寄りまで幅広い年代の層が住んでいる地区だからです。駅周辺の人がコンビニに行くには必ず坂を上らなければならない、気軽に行けない人もいます。また電車通学の学生を店に呼ぶこともできるためです。	同じ意見がいくつかあり、自分の意見への自信が更に深まった。 今回の授業を通じて、自分が住んでいる地区のことを深く考えることができたと思います。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	授業前に設定した3つの課題のうち、「コンビニエンスストアの店舗立地」に対する活動が焦点化され、深い学びにつながった。 当初の授業設計では3つの課題を設定していたが、授業時間（50分）を考えると授業設計の段階で課題をひとつに絞るべきであった。
考えるための材料	課題条件が「学校の周辺」であり、生徒が状況をよく知っていたせいも、考えるための材料として資料のデータを活用していない生徒がいた。資料の説明は前時に行ったが、客観的なデータを基に考察することの重要性を十分理解させることができなかった。
対話と思考	対話を通して考える時間が十分確保され、店舗の立地について理解を深めていくような建設的なやりとりがなされた。出された案や意見について再度話し合う場を設けるなど、思考を深める工夫をすべきであった。
学習の成果	各自の考察をもとにグループ案を形成することができ、発表者は立地場所及びそこに決めた理由について自分の言葉で表現できた。また、他グループの意見を聴くことにより思考の幅を広げ、立地のポイントについて理解を深めることができた。